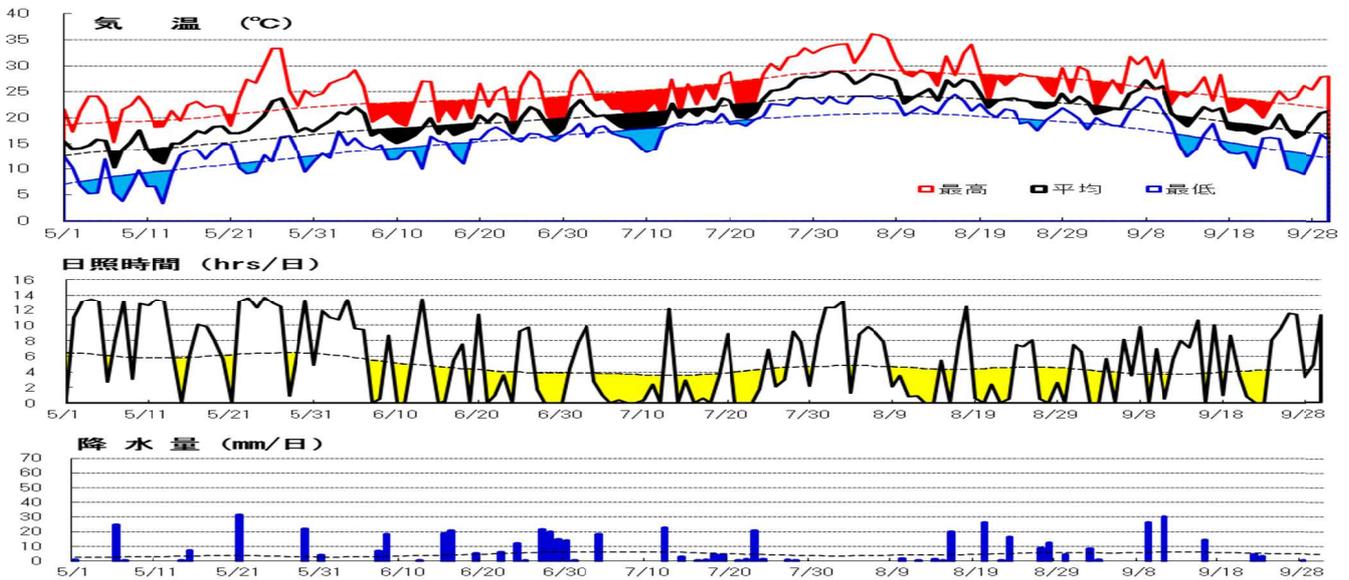


## 高温多照で標準播種は回復か？収穫準備を！！

### 1 気象経過 (アメダス 古川)

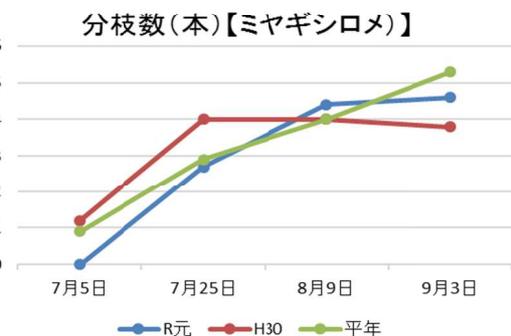
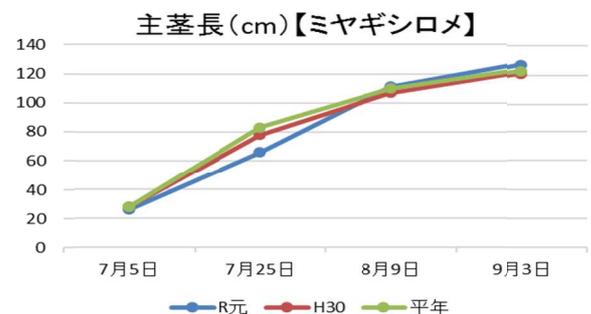
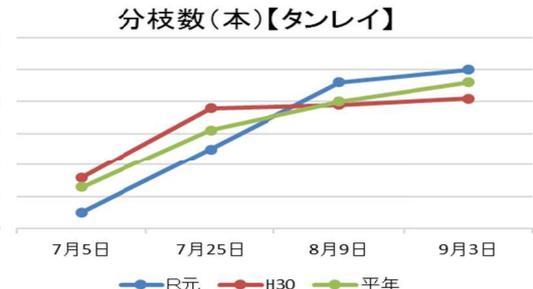
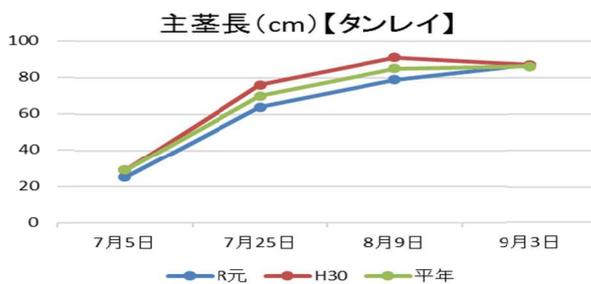


- ・7月末～8月にかけて開花期以降も概ね高温・多照・寡雨傾向に経過した。
- ・特に、8月の中旬の気温が高く、数日間は猛暑日が続き最低気温も高かった。
- ・8月の気温は、中旬以降高低差はあったものの、並～高温傾向に推移した。
- ・9月に入って気温は高い日と低い日が交互に現れた。期間を通して多照寡雨傾向であった。
- ・9月の台風発生数は6接近は4で一時的な降雨の影響はあったが、大きな被害には至っていない。

### 2 生育状況

#### (1) 古川農業試験場 (7月5日～9月3日)

- ・主茎長は、タンレイで生育初期から前年及び平年を下回り、ミヤギシロメでは、8月9日で平年並みになっているが、9月3日現在では両品種とも並となっている。
- ・分枝数は、7月25日までは、前年及び平年を下回っていたが、9月3日では並～上回る結果となった。



- ・ 9月3日現在の着莢節数をみると、いずれの品種とも前年より多く、特にミヤギシロメでは多い。
- ・ 平年と比較すると、いずれの品種とも並～やや少ない傾向である。
- ・ 標播とおもわれる圃場では、既に黄葉しているところが見られる。

品種・播種期	着莢節数 (節/本)	前年差 (節/本)	平年差 (節/本)
タンレイ	34	+5	+1
タチナガハ	33	+0	-3
ミヤギシロメ	31	+15	-0
晩播 タンレイ	16	-0	+1



### 3 今後の管理

#### (1) 排水対策

- ・ 収穫時の圃場表面に水が停滞しないように、排水溝や暗きよの点検整備などを徹底する。
- ・ 圃場内の排水不良で収穫に時間がかかると、紫斑病等の病害により品質が低下する。

#### (2) 雑草対策

- ・ 収穫時に水分の高い雑草（タデ類、アメリカセンダングサ、ホソアオゲイトウ、イヌホオズキ等）が残っていると、汚粒の原因となる。
- ・ 次年度大豆作のためにも雑草の種子が落ちる前に早めに手取り除草を実施する。
- ・ 青立ち株についても、茎水分が高く、収穫時に子実を汚損する恐れがあるので、収穫前に抜き取る。
- ・ 帰化アサガオ類やアレチウリなどの難防除雑草多発ほ場では、耕起前に非選択性除草剤の散布する。その際、大豆が青立のままでは行わないよう厳重に注意する。



#### (3) 適期収穫

